

大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	10	大学等名	横浜国立大学
テーマ	テーマⅡ 学修成果の可視化		

【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

【コメント】

<優れている点>

- ・学修成果の可視化に向けて、学長のリーダーシップによる全学的な体制の下、事業計画を Phase 1（授業設計方法と成績評価の改善）、Phase 2 & 3（YNU 学士力と就業力の可視化）、Phase 4（YNU 学生ポートフォリオ構築）に整理し、年次を追って着実に計画を進めていることから、大学全体の改革は加速されていると判断できる。また、YNU 学士力と就業力の可視化により、入口では入学前の高校時意識調査を行い、出口では卒業時のみならず、卒業後の卒業生・就職先調査、産業界ニーズ調査まで行い、質保証の伴った大学教育に取り組んでいることは評価できる。
- ・4年間一貫した学位プログラム、学部・大学院一体型の科目ナンバリング、授業別ルーブリック、学士力から就業力に至る学修成果の可視化など、興味深い取組が着実に進捗している。また、補助期間終了後に関しても、体制面、資金面で既に計画があり、事業の継続が見込まれることは評価できる。
- ・学内の実施体制について、学部等の縦割りの構造に横串を貫く、YNU 教学マネジメントチームが置かれていることは評価できる。
- ・各種のシンポジウム、講演会、出版等により取組の普及に努めており、評価できる。

<改善を要する点>

- ・独自指標である教員の自己点検票提出率に関しては、目標値に達していない。その原因を明らかにするとともに、改善に向けて努力する必要がある。また、教員の自己点検票提出率の向上に関する対策の結果の見込みについて明示する必要がある。